

「東京都地域福祉支援計画（案）」パブリックコメント募集に寄せられた御意見について

資料6

【18歳以上の方からいただいたご意見：6件】

◆意見提出者数：7名（個人：7、法人：0） ◆意見総数：9件（うち、18歳未満からのご意見：3件）

No.	御意見	東京都としての考え方
○ 第3章 地域福祉推進のための施策の方向性について		
● 第1節 地域生活課題の解決に向けて		
1	<p>（4）重層的支援体制の整備</p> <p>重層的支援体制のアウトリーチ事業について、「本人と直接かつ継続的に関わるための信頼関係の構築」は最も重要、かつ難しいポイントだと思います。支援者側には相当の熱意と力量が求められます。今後、担い手の養成にしっかり注力すべきだと思います。これからの施策の充実を期待します。</p>	<p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>重層的支援体制整備事業は、区市町村が包括的な支援体制を整備するための具体的な施策として、「包括的相談支援事業」「参加支援事業」「地域づくり事業」「アウトリーチ事業」「多機関協働事業及び支援プランの作成」を一体的に実施する事業として、令和3年4月に創設されました。</p> <p>都では、今後も区市町村が各々の地域の実情に応じて、様々な地域の資源を活用し、包括的な相談支援体制の整備を進めることが出来るよう、ヒアリング等により都内区市町村の実態を把握し、好事例の普及を進めるほか、事業の実施を検討している区市町村に対して情報提供や助言を行ってまいります。</p>
● 第2節 テーマ① 地域での包括的な支援体制づくりのために		
2	<p>（4）ア ボランティア活動の支援</p> <p>少子化、高齢化社会について、地域での子育て支援、高齢者の孤独防止などに対して、行政が、ボランティア団体や非営利団体と協力関係を構築し、金銭面を含め支援していただきたい。</p>	<p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>都は、幅広い社会課題に対応するため、ボランティアやNPO等の市民活動を推進する「東京ボランティア・市民活動センター」に対する支援や、区市町村とボランティア・NPO等との協働に向けた働きかけなどを行っています。</p>
3	<p>（4）イ 元気高齢者の地域活躍の推進</p> <p>地域で支え合う社会についてですが、超高齢化が進み仕事の第一線をリタイアした高齢者が沢山いる一方、夫婦共働きが一般的となった今、地域で支え合いのコミュニティをつくるには、リタイアした高齢者にもっと活躍できる場を提供してほしいと思います。地域で役に立ちたいと思っている元気な高齢者は、意外と多いと思います。区の地域センターでボランティアを募るなど、きっかけを作ってほしいと思います。</p>	<p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>東京都では「第8期東京都高齢者保健福祉計画（令和3年度～令和5年度）」において、「介護予防・フレイル予防と社会参加の推進」を重点分野の一つとして位置付けています。高齢者がいつまでも健康で心豊かに暮らすことができるよう、介護予防・フレイル予防を推進するとともに、高齢者自らの希望に応じた仕事や学び、趣味活動や地域活動などの社会参加の促進に取り組みます。</p>
● 第3節 テーマ② 誰もが安心して地域で暮らせる社会を支えるために		
4	<p>（3）エ ヤングケアラーへの支援</p> <p>ヤングケアラーの多くは中高生のため、学校が子どもたちのSOSに気づいて、支援につなげられるよう、スクールソーシャルワーカーなどの体制を充実していただければと思います。</p>	<p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>教職員は、日常的に子供と接していることから、子供や家庭が抱える様々な課題を早期に発見し、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら、福祉等の支援につなげてきました。ヤングケアラーについても、同様の取組を進めていく必要があります。都教育委員会は、学校がスクールソーシャルワーカーを活用できるよう、区市町村が策定する配置計画に沿って経費を補助するなど、支援しています。</p>
5	<p>（3）エ ヤングケアラーへの支援</p> <p>ヤングケアラーについてですが、学校の先生が生徒の様子をよく把握してほしいと思います。勉強のことだけでなく、家庭環境の事にも関心をもって生徒に接し、生徒本人はもちろんのこと、保護者との面談などを通して、自分の生徒の家庭環境がどうなっているか、もっと知ってほしいです。そして、状況によっては先生が、ソーシャルワーカーに相談し、ソーシャルワーカーが福祉の窓口につけて積極的に助けてほしいです。そのために、担任の先生の雑務を減らしてあげてください。</p>	<p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>教職員は、日常的に子供と接していることから、子供や家庭が抱える様々な課題を早期に発見し、スクールソーシャルワーカー等と連携しながら、福祉等の支援につなげてきました。ヤングケアラーについても、同様の取組を進めていく必要があります。都教育委員会は、子供を取り巻く状況を把握するためのアンケート例として、学校生活の他に、家庭や家族等に関する質問項目を加え、学校が子供の小さな変化を見逃さないよう促しています。</p>
6	<p>（3）ク ひきこもりの方等への支援</p> <p>ひきこもりの方への支援についてですが、自分の周りでもひきこもりの話を時々耳にしますので、相当な数のひきこもりの方がいると思います。本来なら、職場など地域や社会で活躍できる貴重な人材です。ご本人やご家族の苦しみは、深く暗いものがあると思いますし、日本の社会にとっても大きな損失です。風邪を引いたとき、近くにクリニックがあるように、住んでいる地域で、そっと相談ができる場所を作ってほしいと思います。</p>	<p>ご意見をお寄せいただき、ありがとうございます。</p> <p>令和3年8月に「東京都ひきこもりに係る支援協議会」から「身近な地域における相談体制の充実と適切な支援機関の紹介」を含む、「目指すべき姿」の実現に向けた七つの取組みの方向性が提言で示されました。</p> <p>都は、都と区市町村による「ひきこもりに係る支援推進会議」において、施策や好事例を共有することなどにより、身近な地域での相談体制の充実を図ってまいります。</p>

「東京都地域福祉支援計画（案）」パブリックコメント募集に寄せられた御意見について

資料6

【18歳未満の方からいただいたご意見：3件】

◆意見提出者数：7名（個人：7、法人：0） ◆意見総数：9件（うち、18歳未満からのご意見：3件）

No.	御意見	東京都としての考え方
○ 第3章 地域福祉推進のための施策の方向性について		
● 第2節 テーマ① 地域での包括的な支援体制づくりのために		
7	<p>（4）オ 地域における防犯活動の推進</p> <p>がっこうに、いくときかえるときは、ちいきのひとがパトロールしてくれるように、がっこうからかえったあと、ごうえんや、ちいきのなかで、あそんでいるときもパトロールさんに、けがをしたときや、へんなひとにあったときにやさしいひとにたすけてほしい。ともだちと、ちいきであんしんしてあそべるようにしてください。（6さい）</p> <p>（学校に行く時と帰る時は、地域の人パトロールしてくれるように、学校から帰った後に、公園や地域の中で遊んでいるときに怪我をしたときや変な人に会ったときに、優しい人に助けてほしい。友達と、地域で安心して遊べるようにしてください。6歳）</p>	<p>きみがともだちとあんぜんであんしんしてあそべるよう、ぼうはんボランティアさんが、まちのあんぜんをみまわってくれています。とうきょうでは、ホームページをついたり、べんきょうかいをひらいて、ボランティアさんのかつどうをおうえんしています。また、いぬのさんぽやランニングをするひと、きみがすむまちではたらくおみせやさんなどにも、ボランティアさんになってもらえるよう、いろいろなとりくみをしています。きみがこわいとおもったときやこまったときに、たすけてくれるやさしいおとなをふやすために、とうきょうとはこれからもがんばっていきます。</p> <p>（一般向けご回答）</p> <p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>安全で安心して暮らせる東京の実現には、防犯ボランティア団体など地域住民による防犯活動が重要な役割を果たしています。東京都では、防犯ボランティア応援サイト「大東京防犯ネットワーク」や各種セミナーを通じて、区市町村や地域の防犯ボランティア団体の活動の活性化を図っています。また、防犯ボランティアの裾野を拡大するため、市民ランナーや犬の飼い主に見守り活動を行ってもらえるよう、啓発や防犯活動グッズの配布を行うとともに、地域のみまもりの目を増やすため、子供等の弱者を見守るネットワークを構築する「ながら見守り連携事業」を推進するなど、防犯活動の新たな担い手づくりにも取り組んでいます。</p>
● 第3節 テーマ② 誰もが安心して地域で暮らせる社会を支えるために		
8	<p>（3）エ ヤングケアラーへの支援</p> <p>ヤングケアラーは、難しい問題だと思いました。幼い兄弟の面倒をみるのが悪いこととも言えないと思います。ただ、家庭事情で、つらいと思っている中学生や高校生もいるということですね。自分でも、これからいろいろ考えていきたいと思います。（15歳）</p>	<p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>「ヤングケアラー」と思われる子供を支援する際の課題の一つとして、子供自身がきょうだいの面倒をみることなどにやりがいを感じていたり、自身の状況を問題として認識しておらず、支援を求めない場合があることが挙げられます。</p> <p>都では、「ヤングケアラーに関する連絡会」を設置し、必要な施策の検討を行っています。</p> <p>これからもヤングケアラーについて関心を持っていただき、何か心配事などあれば、信頼できる周囲の大人に相談してみてください。</p>
9	<p>（3）エ ヤングケアラーへの支援</p> <p>ヤングケアラーについての説明を読んで、自分達のような子供が責任を負いすぎているのは改善したほうが良いと思いました。また、クラスメイトにも兄弟の夕食を作るなどの様々な家事をしていると聞いたことがあるので、意外に身近な事などではないかと思いました。（13歳）</p>	<p>ご意見をお寄せいただきありがとうございます。</p> <p>都では、都内のヤングケアラーの実態を把握するため、国の要保護児童対策地域協議会を対象とした「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書」（令和3年3月）の都分集計を行ったり、区市町村や学校に対しヒアリングを実施しています。</p> <p>また、「ヤングケアラーに関する連絡会」を設置し、必要な施策の検討を行っています。</p> <p>これからもヤングケアラーについて関心を持っていただき、何か心配事などあれば、信頼できる周囲の大人に相談してみてください。</p>